

清瀬市まちづくり基本条例に基づく提言について

当委員会では、清瀬市まちづくり基本条例に基づき市民提案を審議した結果、以下の提案を実施に向けて取り組むべきものと結論を得ましたので、別紙のとおり提言いたします。

提 言

「清瀬市平和の日（仮称）」の制定による平和事業の充実

令和4年12月19日

清瀬市長 澁谷 桂司 殿

清瀬市まちづくり委員会

委員長 菊谷 隆

提 言 書

I 提言の主旨

令和4年清瀬市まちづくり委員会は、清瀬市まちづくり基本条例第9条第2項に基づき、市民提案を審議しました。

当委員会は、市に、「清瀬市平和の日（仮称）」を制定し、これを活用しながら平和事業を推進することを提言いたします。

本提案の実現により、全市民が平和について考える機運を醸成するとともに、特に若者の平和への関心を高めることができると考えます。

II 提言の理由

1 市民からの提案

市民から次の提案が提出されたため、審議してまいりました。

題名	「清瀬市平和の日」の制定
現状及び課題点	<p>清瀬市では平和事業が盛んな現状があります。例えば、市内に住む小中学生を対象にした「ピース・エンジェルズ事業」（1995年から開始、毎年10名の児童・生徒の広島市への派遣）や、平和祈念フェスタ in 清瀬・DVD鑑賞会・朗読会などが定期的に行われています。清瀬市平和祈念展等実行委員会（以下：委員会）の委員の中には実際に戦争を体験している方もいて、その方と対談をした様子なども清瀬市の公式YouTubeに公開されています。私も委員会に所属し、日々、活動をしています。</p> <p>清瀬市は「戦争の体験を後世に語り継ぐ若者は少ない」現状にあります。今、学生の平和委員はたったの7名です。「平和に関心がない」「そもそも委員会などが活動していることすら知らない」「戦争を知らないので伝えたくても伝え方がわからない」若者が多いのだと思います。しかし、日本は唯一の被爆国であり、「二度と同じことを繰り返してはいけない」と発信していかなければならない国です。実際に戦争を体験した方が減ってきている中、その体験を後世に伝えていく若い人が必要で、そのためには、まず若い人たちに平和について関心を持ってもらう必要があると考えます。</p>

<p>提案内容</p>	<p>そこで市長に「清瀬市平和の日」の制定を提言したいと思います。 日には「東京都平和の日」と同じ3月10日あるいは「終戦記念日」の8月15日です。</p> <p>「清瀬市平和の日」には、例えば、下記のような催しを行うとよいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清瀬平和祈念フェスタin清瀬の開催 ・今の世界状況をみた上で若い人たちでの意見交換の場 ・戦争に関する絵本の読み聞かせや、実際に戦争を経験した方の話を聞ける場 <p>「清瀬市平和の日」に行う詳しい内容は委員会を中心に進めていきますが、「若い人たちが参加しやすいイベント」をメインにします。テーマが重いので、明るく、難しくなりすぎない雰囲気大切と考えます。具体的には、今年（2022年8月11日）に開催予定だった「清瀬平和祈念フェスタin清瀬」の内容が参考になると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピース・エンジェルズとして広島に行った小中学生とOGの対談（実際行ってみて、どうだったか、何を感じたか、など若い人から見た目線で対談） ・外部の講師を招き、フェスタ参加者全員で「なぜ戦争は起きてしまうか」をテーマに授業形式で考える講演会（ピース・エンジェルズに行った小中学生もいるため、わかりやすい話題で行う）
<p>見込める成果</p>	<p>「清瀬市平和の日」の制定で、市全体で平和について考える機会をつくることにより、以下のような成果が見込めます。</p> <p>「平和について興味を持つ子どもたちや若い人たちが増える」</p> <p>今、ロシアによるウクライナ侵攻というとても悲しいニュースをよく耳にするようになり、今まで“戦争”や“平和”といった話に興味がなかった若い人たちも、個人個人で思うことが増えていることでしょう。「清瀬市平和の日」という市で決められた日を制定することで、例えば、市内の小中学校を会場に「清瀬市平和の日」にちなんだ講演会や、平和について考える時間と場などが行われ、そのような機会があれば戦争・平和について関心を持ってもらえる人は増えるのではないのでしょうか。</p>

2 まちづくり委員会での検討

前項の提案を審議するにあたり、主に以下の点について指摘がありました。

- (1) 全国で10以上の自治体が独自の「平和の日」を制定しており、非核都市宣言をしている当市の方針に合致している。
- (2) 他自治体の模倣ではなく、清瀬市独自の想いを込めて、清瀬市ならではの取り組みを進める契機となる。
- (3) 子どもや若者に平和の大切さを伝えるメッセージとなる。戦争の記憶を次世代に継承するとともに、今後の平和事業の在り方を次世代の子どもや若者ととともに検討する日となる。
- (4) 従来の平和事業は、参加者が固定化する課題があった。より全市的な取り組みのためには、学校において平和教育を充実させることが必要であり、「平和の日」を制定することで平和教育に活用しうる。

3 市の現状と課題

現在の清瀬市における平和事業の一つに、ピース・エンジェルズの広島派遣や平和祈念展等実行委員会による「平和祈念フェスタ in 清瀬」の実施があります。しかし、新型コロナウイルス感染症により、3年連続でピース・エンジェルズの広島派遣は見送られ、本年8月には「平和祈念フェスタ in 清瀬」の講演会も中止となりました。戦争の記憶が風化してしまいかねない背景には、戦後77年という時間の経過のほか、今般のコロナ禍による事業の停滞があります。

ピース・エンジェルズは、平成7年度から実施され、市内に在住する小学5年生から中学3年生までの児童生徒を市の代表として被爆地である広島に派遣しています。戦争の悲惨さや人命の尊さを再認識し、戦争の事実を風化させることなく平和な社会を創造していくことのできる力を育てることを目的としており、児童生徒たちは事前学習や広島での平和祈念式典への参列、原爆資料館や平和祈念公園を見学し、市民が折った千羽鶴を原爆の子の像に捧げる等の経験をとおして平和の大切さ、戦争の悲惨さを学習しています。

平和祈念展等実行委員会が実施している「平和祈念フェスタ in 清瀬」も、戦争の悲惨さ、平和の大切さ、人命の尊さを広く伝え、平和について改めて考える機会の創出を目的としており、ピース・エンジェルズの広島派遣の報告会や、講演会、展示会を実施しています。

また、平和祈念展等実行委員会では「清瀬市においても、戦争に関する

事実が存在したことを風化させることなく市民のみなさんに伝えていく」ということを目指して、市内の戦時遺跡、戦争体験者のお話などを撮影・記録したビデオ『わが町清瀬「戦争と平和」を歩く』を制作しています。そして、このビデオをもとに空襲や学童疎開などを記録したパンフレット「清瀬と戦争」や「展示用パネル」を作成しています。

このように、清瀬市では既に様々な平和事業を展開していますが、若者の参加や新規参加者が少ないことが大きな課題となっています。

平和祈念展等実行委員会には、ピース・エンジェルズとして広島派遣を経験した若者が委員として参加をし始めていますが、比較的高齢の方が事業を担っている傾向に変わりはなく、平和事業における担い手不足は深刻化しています。

また、「平和祈念フェスタ in 清瀬」において実施しているアンケート結果によると、来場者に占める若者の割合は低く、その多くは複数回来場されていることから、来場者の高年齢化・固定化が進んでいることも課題の一つです。

4 提言

上記の課題があることから、清瀬市まちづくり委員会では「平和の日（仮称。以下同様）」を制定し、「平和祈念フェスタ in 清瀬」の実行委員や来場者だけでなく、市民全員で平和について考える機会を設けることを提言します。

全国状況を調べると、10以上の自治体が既に「平和の日」を制定しており、「平和の日」の日付は自治体ごとに異なり、その理由も様々です。清瀬市においても、その歴史や価値観を基に独自の「平和の日」を制定し、平和事業の充実を図ることを期待します。

「平和の日」の制定により、市全体で平和に関する機運を高め、現在も平和祈念展等実行委員会が中心となって実施している「平和祈念フェスタ in 清瀬」を継続実施しながら、平和事業の内容をより一層充実させていくことが期待できます。

今後の展開の一例として、「平和の日」を中心とした「平和週間」を設け、その間に平和募金や講演会を行い市内各地でイベントを開催することで、より多くの方が「平和とは何か」を考える機会をつくることができます。

また、「平和祈念フェスタ in 清瀬」の展示会はクレアギャラリーで実施しているため、ギャラリーに隣接している駅前図書館と連携し、戦争に関する本の展示紹介や本の読み聞かせを実施することが考えられます。これにより、子どもたちや保護者等の若い世代と一緒に考える機会を創出する

ことができます。

さらに、学校教育における平和学習に活用することも考えられます。平和週間や「平和の日」に合わせて総合学習の時間を利用し平和について学習する時間をつくることで、児童生徒を介して保護者も一緒に平和について考える機会となるのではないのでしょうか。

市内には戦争を体験された方が多くいらっしゃいます。体験者の声を聞く場を設けることは戦争の記憶を次世代に継承し、平和とは何か次世代の子どもや若者とともに考える場ともなります。また、東京都のように戦争体験者等の声の資料を募り、「平和とは何か」を考える入口を広げる取り組みも考えられます。

5 具体的提案（例）

（1）平和週間

「清瀬平和の日」を含む1週間を平和週間とし、様々な事業を実施

ア 平和募金の実施

イ 市内各地での平和イベントの開催

（2）図書館事業

ア 駅前図書館と連携した戦争に関する本の展示紹介

イ 市内図書館での平和に関する本の読み聞かせ

（3）学校での取り組み

総合学習の時間を利用した平和についての学習

（4）戦争体験者の講演等

（5）「もしバナゲーム」の「平和を考える版」の作成

※「もしバナゲーム」とは「人生の最後にどう在りたいか」について「もしものための話し合い（＝もしバナ）」をするきっかけを作るためのゲーム。在宅・緩和ケアの医師が開発したもの

上記は一例であり、平和事業は様々な在り方を検討しうる事業です。新たな事業展開を検討していくにあたり、先入観のない若者の視点で企画及び実施をしていくことが大切であると考えます。

「平和祈念フェスタ in 清瀬」を担っている平和記念展等実行委員会を母体としつつ、より多くの市民、とりわけ次代を担う若者が主体となって企画及び実施していくことができる仕組みの構築を期待します。

Ⅲ 最後に

現在、様々な理由により世界各地で戦争や紛争が起こっています。多くの国や地域において戦災によって人権が抑圧されていることは、平和を享受している我々清瀬市民にとっても決して他人事ではありません。

清瀬市のまちづくりの基本理念である「手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬」は市民同士だけではなく、世界の人々とも「手をつなぎ、心をつむぐ」ことにより世界平和を願う理念でもあると考えます。

清瀬市まちづくり委員会は、清瀬市が更なる平和事業の推進に向けて市全体で取り組める事業を展開し、これからも平和で安心して住み続けていけるまちとなることを願っています。